

事業計画書

事業名	佐久地域の防災強化事業	
重点テーマへの該当	有 テーマを記載	
	無	
実施箇所	佐久市 浅間地区	
実施期間	事業開始予定年月日	令和3年5月6日
	事業終了予定年月日	令和4年3月26日
<事業の目的> 令和元年10月の台風第19号災害において、佐久市内でも千曲川氾濫や豪雨による被災エリアがあった。今後の災害発生に備え、岩村田を中心とした浅間地区の防災強化を率先する形で、当商店会における防災機能を強化していく必要がある。子供から大人まで学び、家族間・地域間での防災意識、また防災活動を通じてコミュニティを深め、被災対応時の結束力を高める拠点として、尽力する。 <事業のテーマ・開催方法> 本来防災活動については、自治区単位で実施することが望ましいと思われる。しかし高齢化などで、地域間で防災活動に差が出てきている。そのため商店会という生活インフラとして、地域の防災活動に果たす役割があると考え。 コロナ禍で集客する防災イベントは難しいことから、非接触のZOOM開催とする（少人数の現地参加は可とする）。委託業者については、長野県内で学生向けの防災体験イベント、市町村・企業向けの防災活動支援などを活発に実施しており、相応のノウハウをもっていることから選定。今年1月より当商店会に出店している。 今回、ZOOM開催ながらも、ワークショップなど体験形式を予定している。また、佐久市の地域別ハザードマップに合わせた防災避難グッズなどの展示（常設）も実施していく予定である。商店会としてのコミュニティ機能、防災機能向上に役立てていきたいと考えている。		

事業概要

<事業の具体的な内容>

1. 防災に備える事業

<時期・場所>

時期：6月～10月（4回開催）※土曜日開催を予定

場所：つどいの館こてさんね、中宿おいでなん处（商店会施設）、オンライン開催中心

<規模>

対象：浅間地区の学生（小中学校・高等学校）、一般

参加予定者 約100人（4回開催計、①小学校低学年向け、②小学校高学年向け、③中学生向け、④高校生向け）

イベント周知方法：岩村・浅間両小学校、浅間中学校、佐久長聖高等学校を訪問、先生に説明の上、有志参加者を募集（原則オンライン参加）。現地会場でも若干名の参加者（一般等）を募集。

現在、各学校には細かい実施内容について交渉中（承諾済）。

<方法等>

目的：防災への備えを個々に意識する。小学生には防災知識の理解を、中学生には助け合いというボランティア意識の醸成を、高校生には地域貢献についてを防災活動から学ぶようなカリキュラムを企画。

実施内容は下記①、②である。小学校低学年、小学校高学年、中学校、高校生向けに詳細は変更する。

①防災基礎講座

- ・テキスト資料・映像を活用、佐久市地域防災マップを活用
- ・防災グッズの実演（浄水器、発電機、衛生用品等の実用体験）
- ・商店会の取り扱い商品と防災活用（クイズ形式）

②防災グッズの体験勉強会

- ・ワークショップ形式で防災グッズを作る

※実用体験会で使用する用品代の備蓄水、浄水器、発電機、衛生用品等は、使用後は、当商店会で保管し、商店街利用者の方に展示するほか、令和3年度以降も体験会等及び緊急時に活用する。

2. 被災時の防災活動教育

<時期・場所>

時期：11月～3月（2回開催）※土曜日開催を予定

場所：つどいの館こてさんね、中宿おいでなん处（商店会施設）オンライン開催中心

<規模>

対象：浅間地区の自主防災担当者、地元企業担当者

参加予定者 約50人（1回当たり）

イベント周知方法：自治区、企業を訪問（一部参加承諾済）

<方法等>

災害発生時の対応方法を、共助・結束力を再認識する場として学ぶ

①災害情報の確保・地域での避難活動

- ・テキスト資料・映像を活用して実施
- ・マイタイムラインの作成・運用訓練

②避難所の設営・運営

- ・テキスト資料・映像資料を活用して実施
- ・ワークショップ実施
- ・学び共有（感想を全体でシェア）

本事業では、佐久市危機管理課の方にも随時アドバイスをいただきながら開催を実施していく。

＜達成目標＞

佐久地域住民の防災意識が高まる事で個々のいのちが守られる。共助による地域防災力の向上と地域住民の結束力の高まりによりコミュニティ機能が強化される。

参加者にはアンケートを実施し、80%以上の方々が、参加前に比べ防災への意識が高まったと実感していただく。

＜広報表示の方法（佐久市まちづくり活動支援金事業である旨の表示）＞

・委託業者の実施プログラムの表紙、イベント周知の案内（チラシ・ポスター）に、「佐久市佐久っと支援金活用事業」と記載。

＜重点テーマに該当する場合 該当する理由（アピール）＞

年間計画	4月	
	5月	・ 打ち合わせ（商店会、委託業者、協力機関） ・ 周知活動（広報活動、学校訪問など）
	6月	・ 防災に備える事業実施 ・ 打ち合わせ（実施事業の検証） ・ 周知活動（広報活動、学校訪問など）
	7月	・ 周知活動（広報活動、学校訪問など）
	8月	・ 周知活動（広報活動、学校訪問など）
	9月	・ 防災に備える事業実施 ・ 打ち合わせ（実施事業の検証）
	10月	・ 防災に備える事業実施 ・ 打ち合わせ（実施事業の検証） ・ 周知活動（広報活動、自治区・企業訪問など）
	11月	・ 被災時の防災活動教育（第1回） ・ 打ち合わせ（実施事業の検証） ・ 周知活動（広報活動、自治区・企業訪問など）
	12月	・ 周知活動（広報活動、自治区・企業訪問など）
	1月	・ 被災時の防災活動教育（第2回） ・ 打ち合わせ（実施事業の検証） ・ 周知活動（広報活動、自治区・企業訪問など）
	2月	
	3月	・ 補助事業検証

特記事項	地域や社会にどのような利益がもたらされるか	<「公益性」の視点> ・地域住民の方々に、地域の災害リスクを認知し、日頃の防災意識を高めてもらう。 ・子供から大人まで広く、防災への備えを個々に意識してもらい、参加した方々を情報を共有することで、自分自身の備えの行動を実践してもらう。 ・自治区や企業などの防災担当の方々に、災害発生時の対応方法を通じて、共助・結束力を再認識する場として学んでもらう。
	どのような点に独自性や工夫があるか	<「発想の豊かさ」や「創意工夫」の視点> ・防災への意識を高めてもらうため、防災グッズを作るワークショップ、防災用品の体験会、ケーススタディの意見交換など、参加形式のイベント進行に注力する。
	市内へどのように取組が波及していくことが見込まれるか	<「波及効果」や「発展性」の視点> ・家庭での防災アクション実行。 ・企業でのBCP計画策定と被災時のアクションプラン策定。 ・自治区での被災時のアクションプラン策定。 ・自治区・企業等での防災備蓄のアクション実行。
	活動を継続するためにどう取り組むか	<「自立性」の視点> ・アンケートなどの意見を収集しながら、開催イベントの検証を実施。 ・周知活動を通じて、予定参加者数を達成する。 ・必要に応じて開催時期・内容を調整・変更する。
	翌年度以降の活動内容概要	・参加対象エリアを浅間地区から拡大していく。 ・イベント内容を拡充する(具体的な被災を想定した体験勉強会など)。
	事業の最終目標	・岩村田連合商店会の事業取り組みを佐久市民の方々に知ってもらう。 ・イベント参加者の増加、商店会を来訪する方々の増加により、1人でも多くの方々に防災意識を高めてもらう。